

編集後記：これまでの私の体験から、エアロゾル粒子（大気中に浮遊する微小な液体または固体の粒子）が関係する自然現象に悩まされたことを振り返ってみました。

湿度が高いとエアロゾル粒子は雲凝結核として働き、霧になります。霧が濃いと視程が悪くなります。私の職場がある茨城県つくば市では、夜間に霧が発生することがあります。至近距離でない周囲を走る車や信号が見えない時もあり、自動車の運転などで危険を感じることもあります。個人的な印象ですが、私の職場の敷地内では、特に高頻度で霧が発生しているような気がします（何故だろう？）。霧が非常に濃い場合は、飛行機の離着陸ができなくなることがあります。以前に出張で米国のサクラメント空港へ向かう予定だった時には、濃霧が原因でサンフランシスコ空港からの経由便が欠航し、鉄道に変更して移動したことがありました。復路もサクラメント空港で欠航を知り、日本へのフライトに間に合うように、サンフランシスコ空港までタクシーで移動させられました。飛行機で移動する予定の区間を車で移動したため、大急ぎでの駆け込みでした。

火山灰には強烈な印象があります。2010年4月にアイスランドで噴火が起き、火山灰が航空機へ悪影響（エンジンへのダメージ等）を及ぼす可能性があるた

め、ヨーロッパ各国で領空が封鎖され、多くの空港が閉鎖されたことは、日本でもニュースになったと思います。ちょうどその頃、スイスのチューリッヒに出張中で、私自身もこの混乱に巻き込まれました。航空機が全便欠航する状況が数日間続き、空港はものすごい人数で長蛇の列ができていました。次の訪問予定先の英国へは渡れず（鉄道やフェリーも大混雑で利用できない）、しばらく長距離の移動ができませんでした。第二次世界大戦以後の航空運航では、最も混乱がひどい状況であり、世界的に大きな経済的損失をもたらしたと言われていています。これほどの規模になると、できることも限られるため、逆にあきらめがついたことを覚えています。この時は、噴火に関する日本からの情報はほとんど入手できず、欧州の気象機関からの情報に頼っていました。

エアロゾルは放射・雲過程などで重要な役割をはたすため、気象分野との非常に密接な関わりがあります。今回の執筆では、気候影響などだけでなく、エアロゾルが人間社会へ及ぼす影響も大きいものだ、と再認識させられました。エアロゾル分野では、未解明な問題も多く、現在活発な研究が行われています。皆様にも研究交流の場として「天気」を活用していただくと幸いです。

（大島 長）